

慶應義塾大学日吉・湘南藤沢キャンパスに おける蘚苔類フロラ

氏名：飯田碧生，小林由樹

要旨

都市域および郊外に残された大学キャンパスの緑地は、地域の自然環境を保全するレフュージアとしての役割を果たしている。本研究は、立地環境や造成履歴の異なる慶應義塾大学日吉キャンパス(神奈川県横浜市)及び湘南藤沢キャンパス(神奈川県藤沢市)を対象地域として、蘚苔類フロラの調査を実施し、各キャンパスの背景に応じた異なる視点から評価を行った結果を報告するものである。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおいては、環境省の「自然共生サイト」に指定された自然環境を保全するための基礎資料とすることを目的とした。キャンパス内では、地上生および樹幹着生ものを合わせて、蘚類12科19種、苔類4科5種、ツノゴケ類1科1種の計25種類の蘚苔類植物が確認された。そのうち、ウカミカマゴケ(*Drepanocladus fluitans*)を神奈川県新産種と報告する。本種は本来冷涼な気候帯を分布域とするが、今回人口造成地で確認された。湘南藤沢キャンパスは、自然分布と乖離している事実から、侵入に際して人工的な介入があったことが示唆される。これは、都市近郊の緑地管理における非意図的人為的移入可能性を提起するものである。

慶應義塾大学日吉キャンパスにおいては、蘚苔類フロラの現状を明らかにし、約40年間の変遷を評価することを目的とした。調査の結果、蘚類21種、苔類4種、ツノゴケ類0種の計25種の蘚苔類植物が確認された。過去資料との比較において、14種が新規に確認され、16種が確認されなかった。これは、顕著な種入れ替わりを示唆するものである。特に、南方系種の新規確認は、温暖化の影響を示唆している。一方、1986年と2025年の確認種の生活形構成の間に差は認められなかった。他キャンパスとの地域間比較においても同様の傾向が見られた。これらの結果は、個別種で

は環境圧による変化が生じているものの、群集としての機能は極めて安定しており、都市緑地の蘚苔類フロラにおいて機能的冗長性が維持されていることを示唆する。

本研究の結果、日吉キャンパスでは都市環境下における蘚苔類フロラの機能的安定性が、湘南藤沢キャンパスでは生態系評価上重要な種がそれぞれ確認された。これらは、大学キャンパスが都市・郊外における蘚苔類フロラの特徴を示すものであり、今後の緑地管理および自然環境保全策を策定するうえで重要な知見を提供するものである。